

参加無料
申込不要

湯野・戸田の領主

堅田氏と徳地

～高杉晋作を富海に送れ!～



島地と湯野とは、わずか10kmの距離である。

長州藩内で、血で血を洗う激しい権力闘争が始まる元治元年(1864年)の10月27日、追っ手から逃れて高杉晋作は雨降りしきる闇夜、正慶院の山縣有朋を訪ねる。「武力蜂起を!」。しかし山縣は動かなかった…。失意の中、高杉晋作は筑前(福岡)行きを論じて富海へと姿をくらましていく。その時山縣有朋は、奇兵隊士の一人”伊藤伝之助”を高杉晋作に付けてやったと自伝「懐旧記事」に記す。

湯野と隔ててわずかに10kmの島地は、湯野や戸田の生活圏内にある。毛利家寄組筆頭(トップ)の堅田氏が、ここ湯野・戸田の領主であったこと。石高6千石の小大名にも匹敵する毛利家の名門であったこと。幕末には、学問を重んじた堅田氏が家老以下26名の若者を吉田松陰の「松下村塾」で学ばせたことなどは、ほとんど語られることはない。

郷土史家の山田文雄氏に、堅田氏と徳地に係るこの謎を語ってもらいましょう。

令和4年

◆日時：11月27日(日) 10時～12時

◆場所：山口市立徳地図書館 視聴覚室

◆講師：山田 文雄 氏 (徳地史談会 会長)

◆問い合わせ：山口市立徳地図書館 TEL 0835-52-0043

